

学校番号	17	学校名	日川高校		
全・定・通	全	学年	1	在籍生徒数	200 名
教育目標 (学力に関するもの)		学習目標を明確化し、指導と評価の一体化に努め授業力の向上を図る。ICTを積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びを目指す。			
育てたい生徒像 身に付けさせたい資質・能力		・文武両道を実践する意思を持ち、向上心を持って努力できる生徒 ・知的好奇心が旺盛で、主体的に考え、行動できる生徒 ・目標を持ち、実現に向けてひたむきに努力できる生徒 ☆ 身に付けるべき資質・能力 主体性、協働性、粘り強さ／思考力、判断力、表現力、自己分析力、課題解決力／自己管理能力、情報活用力、コミュニケーション力			
各教科の取組					
教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題	
国語	【知識及び技能】社会生活に必要な国語の知識や技能の基礎を身に付け、我が国の言語文化を理解でき	4	4.2	古典分野の文法事項や評論文における語彙習得に課題が残る。古語の指導に向けては短しスパンで確認が必要である。また、複数の資料を読み取る技法の習得を目指したい。	
	【思考力、判断力、表現力等】論理的思考力や想像力を身に付け、他者に伝えることを通して、自分の考えを伝えることができる。	4	4.2	多分野に渡る評論文や小説、和歌や詩に触れ、自身の内面、外面の双方から思考を深める学びを得た。その思考力をさらに深め、そこから適正な判断力と表現力を培ってみたい。	
	【学びに向かう力、人間性等】言葉への認識を深め、読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を持つ。	4.1	4.1	与えられた課題や学習した内容に終始せず、さらに視野を広げ、興味関心を多方面へ繋げられるような態度を育んでいく。その中で他者との対話を大切にしていきたい。	
地公	【知識及び技能】歴史上の諸事象、および現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を調べることができる。	4	4.1	基本的な知識の定着が不十分なので、もっと家庭学習の時間を確保する必要がある。史料・データ・地図などを駆使して、歴史的・地理的な事象の考察に必要な知識を収集・整理する力を高めたい。	
	【思考力、判断力、表現力等】歴史上の諸事象、および現代の諸課題について、多面的・多角的に考察し、合理的に判断し、表現することができる。	3.9	4	授業を通して学んだ知識と現実の世界で起っている出来事をつ結びて考察したい。1つの情報によって即断するのは、多面的・多角的な視点から歴史的・地理的な事象を考える習慣を身につけたい。	
	【学びに向かう力、人間性等】民主社会に生きる人間の在り方・生き方について、主体的に思索することができる。	4	4.1	学習のなかで得た知識や考え方を活用して、自分が生きている社会の在り方や自分自身の生き方を考えるような場面を少しでも設定する。社会的な事象を自分の問題として考える。	
数学	【知識及び技能】事象を数値化した、数式的に解釈し方する能力の基礎を身に付け、処理することができる。	3.9	4.1	公式を単純に暗記するだけでなく、成立立ちなどについても説明し、数学的な考えの基礎を養う。	
	【思考力、判断力、表現力等】数式や目的に応じて適切に図形し、事象を的確に表現できる。	3.8	3.9	応用問題に取り組むだけでなく、日常の中にある数学的な事柄に触れ、立式したり、説明し方する場を設ける。	
	【学びに向かう力、人間性等】問題解決の過程を振り返って考察を深めることができる。	3.9	4.1	生徒が自らの考えと、なぜそのように考えたかを説明する場面を増やす。BYODを活用した振り返りシートの導入や家庭学習に効果的に取り組めるような働きかけをしていきたい。	
理科	【知識及び技能】自然の事物・現象について科学的に探究するために必要な知識及び技能の基礎を身に付けていく。	4.2	4.1	自然の事物・現象に興味を持つことはできていた。しかし、探究するために必要な計算などの技能に個人差が見られる。継続的に学ぶことで基礎的な知識・技能を確実に身に付けていく。	
	【思考力、判断力、表現力等】自然の事物・現象から生じる課題に対し、科学的・批判的に思考し、表現することができる。	4	4.1	授業内での発表者を通じて表現する時間を設けた。しかし、批判的な思考については個人差があり、今後深めていくことが課題である。	
	【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に対し、課題を発見して主体的に探究し、解決しようとする姿勢を持つことができる。	4	4.1	事前の事物・現象に興味を示すことはできている。しかし、そこから課題を発見して主体的に解決に向かう力には課題が残る。疑問に対して解決方法を思考する姿勢を育てていく。	
英語	【知識及び技能】英語の特性や文法に関する事項を理解し、目的・場面・状況などに応じて日常的・社会的課題などコミュニケーションに必要な基礎を身に付けることができる。	4.1	4.2	英語の文章を読む上での必須英単語や熟語力の継続的指導が必要である。また、英文法が難しいと感じている生徒が多いため、反復演習が必要である。	
	【思考力、判断力、表現力等】目的・場面・状況に応じて日常的・社会的課題について情報・考え・気持ちなどを把握し伝えることができる。	4	4.1	リテリング力の育成に力を入れた。場面、状況を把握し、自身の言葉で相手に的確に伝える表現力の育成を継続して行いたい。今後は文法や語彙のレベルを高める指導を行っていく。	
	【学びに向かう力、人間性等】背景文化への理解を深め、相手に応じて、主体的に英語で文化について伝えたりしようすることができる。	4.1	4.2	フェロー講演会の外国人講師やナディアスピーカーとのインタビューは自覚的な自然に行えるもの、必ずしも場面に適切でなければケースも見かけられた。積極性を大事につつ誤解を招かない応対力養成が必要である。	
芸術	【知識及び技能】生活や社会の中での芸術や芸術文化と豊かにかかわる知識及び技能を身に付けることができる。	4.2	4.2	芸術に関する多岐にわたる知識や技能を身につけるよう工夫した。今後はより専門性の高い知識や技能の習得をさせる。	
	【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深め味わうことができる。	4.3	4.3	自分らの表現や芸術を味わう姿勢を養った。今後はさらに多くの分野の芸術に触れ、文化的感性を涵養したい。	
	【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたる芸術を愛する心情を育み、感性を高め、心豊かな生活や文化を創造していく態度を持つことができる。	4.3	4.3	自らの生活を豊かにし、社会を創造してゆく姿勢を育んだ。今後は興味関心を引き出し芸術を愛する心を伸ばしたい。	
家庭					
体育	【知識及び技能】運動の特性に応じた行い方やルールを知識を理解することと運動の特性や魅力、目的に応じた技能を表現することができる。	4.4	4.4	基本的な知識・技能を全員に身に付けさせる。個の特性に応じて、より高いレベルの習得を目指した取り組みができるようにする。	
	【思考力、判断力、表現力等】自己や仲間との課題に応じた運動を継続するための取組を工夫することができる。	4.3	4.3	BYODを活用し、自己の課題解決に向けた取り組みができるようになる。その際、他者との意見交換を行う場を設定し、協働的な活動により一層充実させる。	
	【学びに向かう力、人間性等】様々なスポーツに触れ、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続し、明るく豊かで活のある生活を送る態度を身につけることができる。	4.6	4.5	身体的活動の場面では積極性が見られるが、自己の考えを述べたり記述することには消極的である。知識・技能や思・判・表の学びをアウトプットさせる取り組みを充実させていく。	

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
情報	【知識及び技能】情報やメディアの特性を踏まえ、情報技術を活用し、問題の見発見・解決をし、考え方を形成する過程や方法を芸術・伝達できる。	4.2	4	データサイエンスでは、データを分析し考察する中で、論理的な思考、データを根拠としての発表を行った。グループワークなども増やし、より実践的な活動に改善していきたい。
	【思考力、判断力、表現力等】状況や目的に応じて、情報と情報技術を効果的に活用し、問題の見発見・解決の方法を考察し、芸術・伝達できる。	4.1	4	データの分析、プログラミングの関数など、問題に対して何をを用いるべきか考え、判断できる力を高められた。今後はプログラムを構築させるなど、高度な実習なども取り入れていきたい。
	【学びに向かう力、人間性等】情報技術や情報を積極的かつ適切に活用し、実社会における自らの情報活用などを振り返り主体的に参画しようとする。	4.2	4	ICTやソフトウェアを利用して、データを取り扱うことで、自分ごととして問題を捉え分析するなど、情報科での学びを利活用できる姿勢を養えた。
総経	【知識及び技能】関心のある分野について正しく理解し、課題発見のための知識や技術を身につけている。	—	4.2	PCを用いての情報収集作業は、概ねどの生徒もできていた。パワーポイント等の操作知識や技術には個人差があり、都度指導の必要性を感じた。
	【思考・判断・表現】課題発見や設定において、必要な情報を収集整理し発表できる。	—	4.1	実験やリサーチの道筋建てがうまくできていない生徒が多く、ただ雑多に情報を収集するだけになっている生徒が多い。研究計画の推進が必要と感じる。
	【主体的に学習に取り組む態度】自分や社会生活の発展のために進んで探究活動に取り組むことができる。	—	4.2	概ねどの生徒も自分なりの興味関心を深めようと研究に取り組んでいた。外部機関との連携により生徒の知見をさらに広げられる活動ができるという。

「授業アンケート」高評価数値の推移(96:小点数第1位まで)		R6中間	R6度末
授業の始めに授業の目標を確認することができた ①強くそう思う, ②そう思う		72.9%	70.1%
話し合い, 討論, 発表などの言語活動に取り組むことができた ①強くそう思う, ②そう思う		88.5%	89.1%
他の人の話や発表に耳を傾けることができた ①強くそう思う, ②そう思う		94.8%	96.6%
ノート等で授業の記録をすることができた ①強くそう思う, ②そう思う		94.3%	93.1%
活用・探究など, 学んだことを別の場面で使うようにすることができた ①強くそう思う, ②そう思う		78.6%	83.3%
授業や単元の終わりに, 目標を達成しているかを評価することができた ①強くそう思う, ②そう思う		67.2%	73.6%
家庭学習(宿題や課題)と授業を, 有機的に結び付けられることができた ①強くそう思う, ②そう思う		75.0%	78.7%
授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた ①強くそう思う, ②そう思う		86.5%	90.2%

生徒の家庭での学習状況や教員の学習指導にかかわるアンケートでは、「達成されている」「ほぼ達成されている」が合わせて8割以上であった。学習に関する生徒自身のアンケート結果もほぼ8割が高評価であり整合性がみられ、学力の伸長への一定の評価がうかがえる。記述の回答では、週間課題と土曜日の学習会のあり方への要望も見られたため、その効果の周知や方法の検討を保護者と連携しながら検討していく必要がある。

アンケート結果から、ICT機器の活用や発表の機会に関する評価は、中間評価よりも年度末の評価の方が高くなっていることが分かった。これは、授業や家庭学習においてBYODを活用する機会が増え、それに伴う発表やペアワークの機会が多くなったことで、生徒がその効果を実感したためと考えられる。一方で、ノートに記録をする機会には減少する傾向が見られた。また、次年度の課題として、評価が低かった「学習の目標を意識し、授業後に身につけたかを確認する自己評価」の方法を確立することが求められると感じた。